

## 甲斐ワイナリー

日本  
山梨県甲州市塩山

## 歴史を受け継ぐ、気負いなき16代目

## 【山梨ワインの魅力を伝えたい】

日本ワインが今注目されています。  
2015年には、国内産ブドウ100%で造られる「日本ワイン」がカテゴリー化され、注目度が大きく増してきたことも実感できます。  
その中でも最もワイン造りの歴史と伝統がある勝沼をはじめとする山梨は、要注目！  
注目すべきと言えるその大きな理由の一つは、「世代交代」です。今までにない感性を持った栽培家・醸造家が現れ、勝沼に代表される昔のイメージから大きく変わってきています。

もともと中規模ワイナリーが多かった勝沼や塩山地区も、個人経営の小規模ワイナリーが参入できる時代が来ました。

そして、昔からの伝統的なワイナリーも代替わりすることで、名前はそのままで新たな取り組みが始まり、目覚ましい品質の向上と、過去の常識にとらわれない、今の時代にふさわしい個性と楽しさを備えたワインが次々に誕生しています。

もう一つの理由は、「日本独自の栽培技術」。  
海外のワインに詳しい方は、買いブドウ(ネゴシアンもの)のワインよりも、自社ブドウ(ドメヌもの)が理想であると、なんとなく思っている方が多いはず。しかしそれは、山梨をはじめとする日本ワインには、必ずしも当てはまりません。

なぜかという、日本のブドウ農家の多くは、美味しいブドウを作るための、卓越した栽培技術を持っているからです。その中でも山梨のレベルは、非常に高いと言えます。

当然のことながら、美味しいワインは美味しいブドウからしかできません。  
たとえ買いブドウであっても、ワイナリーとブドウ農家がワインの品質向上のために、互いに協力をしながら、それぞれの力を発揮している点に、今後大きな可能性を感じます。

もちろんこれは、山梨だけでなく全国の日本ワイン生産者に言えることです。  
ただ歴史と伝統にしがみついているだけではない、今の山梨ワインの素晴らしさを、是非皆様に飲んで感じていただきたいと思います。

## 【甲斐ワイナリー】

まずこの名前からしても、歴史を感じさせる「甲斐ワイナリー」。  
栽培と醸造を任されている風間聡一郎さんは、武田信玄に仕えるために山梨に移住したとされる、風間家のなんと16代目。江戸時代に酒造業を創業し、1986年に聡一郎さんの祖父がワイン造りを始めました。東京農大を卒業後にブルゴーニュで醸造を学び、東京のワインショップに3年ほど勤務したのちに実家へ戻り、気が遠くなるほどの歴史が息づく、このワイナリーでの仕事を始めたのは2005年でした。

甲斐ワイナリーで造られるワインは約3万本。畑は1.7haほどを所有していて、自社ブドウと地元の農家から購入するブドウ(ほとんど甲州)の割合は1:3ほどです。

基本となるワインはやはり甲州種の白ですが、繊細かつ伸びやかでふくよかな酸味と果実味に、際だつミネラル感が特徴。ワインが持つ旨味は、和食に幅広くよく合い、飲み疲れすることなくスイスイ飲んでしまいます。

メルローの赤ワインは、決して派手ではない豊かな香りと、ほどよい果実味、ほどよい渋み、そして心地よいスパイシー感があって、しっかりとメルローらしい個性を感じますが、なめらかでバランスの良いワインです。

どれも輪郭のくっきりとした、クリアでシャープワインなのに、何かしらユルさとナチュラル感があって、とても親しみを感じます。実は聡一郎さんは、息子さんを交えたSNSの投稿が大人気で、難しい話し抜きのユーモアあふれるコメントとともに、畑と醸造所の1年を誰もが分かりやすく伝えてくれていて、それが甲斐ワイナリーに対しての親近感に繋がっているように思います。  
ワインの中にも、そんな暖かさが感じられるんですね。

ワイナリーの歴史を背負うプレッシャーは必ずあると思います。特に現在は日本ワインブームによって、醸造所の数が目まぐるしく増加し、注目されるワイナリーとそうでないワイナリーがはっきりと分かれています。昔のまま変わることのできないワイナリーは、すたれてしまう厳しい状況の中で、これまでの顧客を大事にしながら、新しいファンを増やしていかなければならないというのが、新規ワイナリーとはまた違った苦労があるように思います。

何を継承し、何を創造するのか。  
飄々と、しかも着実に実力と人気を自分のものにしていく聡一郎さんに、今後の期待が膨らみます。



【60071】Kazama Koshu かざま甲州 辛口24				【60072】Kazama Koshu Sur Lie かざま甲州 シュールリー 24			
呼称	-			呼称	-		
参考小売	¥2,600			参考小売	¥3,300		
規格/タイプ	750ml×12 / 白・辛口			規格/タイプ	750ml×12 / 白・辛口		
栽培/認証	- / -			栽培/認証	- / -		
テロワール	土壌	標高・向き	面積・収量	テロワール	土壌	標高・向き	面積
	関東ローム層	複数農家のため色々	複数農家のため色々		関東ローム層	350m・南	0.4ha
品種 (収穫/樹齢)	甲州 100% (手摘み/複数農家のため色々)			品種 (収穫/樹齢)	甲州 100% (手摘み/ComingSoon)		
醸造 発酵 熟成	除梗後、空気圧式圧搾 15hlのステンレスタンクで発酵・熟成 濾過あり・清澄あり			醸造 発酵 熟成	除梗後、空気圧式圧搾 15hlのステンレスタンクで発酵・熟成 濾過あり・清澄あり		
SO <sub>2</sub>	収穫時:10mg/L発酵中:40mg/L瓶詰め時:20mg/L			SO <sub>2</sub>	収穫時:10mg/L発酵中:40mg/L瓶詰め時:20mg/L		
アルコール度	12%			アルコール度	12.5%		
特徴	武田信玄に仕えるため山梨に移った風間家16代目の総一郎さんが当主の甲斐ワイナリーです。自社ブドウと買いブドウの甲州をステンレスタンクで発酵・熟成しました。クリアで透明なライトグリーン、すだちやグレープフルーツ、セルフィーユ、ミントのアロマを感じます。果実の甘さを感じる口あたり、スムーズなテクスチャーで中程度の酸味が感じられるバランスのよい仕上がりです。			特徴	甲斐ワイナリーは、祖父が始めたワイン造りを現当主の総一郎さんが受け継いでいます。自社ブドウを含む複数の農家からの買いブドウの甲州を除梗後プレスし、15hlのステンレスタンクで発酵後、澱の上で数ヶ月熟成し旨味を抽出しました。透明なライトグリーンの外観、アップルミントやグレープフルーツ、すだちのアロマが広がります。キリッとしたほどよい酸味、夏みかんの果実味を楽しめます。		
【60073】Cuvée Kazama Koshu キュヴェ かざま甲州 辛口24				【60074】Cuvée Kazama Merlot キュベ かざま メルロー 23			
呼称	-			呼称	-		
参考小売	¥3,700			参考小売	¥4,600		
規格/タイプ	750ml×12 / 白・辛口			規格/タイプ	750ml×12 / 赤・ミディアム		
栽培/認証	- / -			栽培/認証	- / -		
テロワール	土壌	標高・向き	面積	テロワール	土壌	標高・向き	面積
	シルト	350m・平地	0.2ha		シルト	350 ~ 650m・南	0.3ha
品種 (収穫/樹齢)	甲州 100% (手摘み/5 ~ 60年)			品種 (収穫/樹齢)	メルロー 100% (手摘み/10 ~ 20年)		
醸造 発酵 熟成	水平式圧搾 15hlのステンレスタンクで発酵・熟成 濾過あり・清澄あり			醸造 発酵 熟成	ステンレスタンクで醸し フリーランジュースと一部空気圧式圧搾したジュースをアッサンブラージュ 14.5hlのステンレスタンクで発酵 (ルモンタージュ 1日2回) 熟成 225 ~ 230Lの木樽で熟成 濾過あり・清澄あり		
SO <sub>2</sub>	収穫時:10mg/L発酵中:37.5mg/L瓶詰め時:20mg/L			SO <sub>2</sub>	収穫時:10mg/L熟成中:40mg/L		
アルコール度	12%			アルコール度	12%		
特徴	東京農大を卒業後にブルゴーニュで醸造を学んだ総一郎さんが栽培と醸造を担当する甲斐ワイナリーです。自社ブドウのシルト土壌で育つ甲州を15hlのステンレスタンクで発酵・熟成しました。透明なグリーンイエローの色調、柚子やすだち、グレープフルーツ、香ばしい香りを感じます。ドライな果実味に心地の良い酸が溶け込んだ丸みのあるボディ、ジューシーさも楽しめる逸品です。			特徴	自社畑のメルローを醸し後フリーランジュースと一部プレスしたジュースをアッサンブラージュし、ルモンタージュを施しながらステンレスタンクで発酵、木樽で熟成しました。明るい紫ガネットの外観、フランボワーズやフルーツマト、ピーマン、土や濡れた石の香りを感じます。柔らかいタンニンが心地よく、果実味とのバランスのよい仕上がりです。		

酸化防止剤無添加の商品はお取り扱いにご注意ください(基本的に15度以下の保存をお願いします)



*Diony*